

資源管理に必要な情報の提供事業

定置網漁獲統計調査

久野正博

目的

定置網に関する詳細な漁海況情報を蓄積することにより、資源管理を行っていくための基礎資料とする。

方法

三重県内の大型定置漁場のうち、相差・志島・片田・和具・阿曾・贅・方座・錦・島勝・須賀利・九鬼1号・九鬼2号・早田・梶賀・阿田和1号・阿田和2号の16漁場を対象に平成19(2007)定置年度(平成19(2007)年10月～平成20(2008)年9月)の魚種別漁獲量を調査した。

結果

詳細については平成19定置年度三重県ブリ定置漁獲統計で報告したので、以下は結果の概略を示す。

平成19(2007)定置年度の総漁獲量は5,756トンで前年度比101.5%であった。魚種別ではマアジが2,438トンで全魚種の42.4%を占めた。次いでブリ(6kg以上の銘柄)392トン、ワラサ(2～6kgの銘柄ブリ)361トン、サバ類242トン、イサキ237トン、ウルメイワシ207トン、シイラ196トン、イワシ類(分類されていない分)187トン、イナダ(0.5～2kgの銘柄ブリ)134トン、スルメイカ183トン、マルソウダ136トン、カマス類115トンであった。漁獲量10トン以上の魚種の中で前年度と比較して漁獲が増加したのは、マアジ(前年度比4.3倍)、ウスバハギ(同4.3倍)、マルソウダ(同2.3倍)、スズキ(同1.6倍)、アオリイカ(同1.6倍)、イサキ(同1.5倍)、イナダ(同1.4倍)、ウルメイワシ(同1.4倍)、ムツ(同1.3倍)、カンパチ(同1.1倍)、トビウオ(同1.1倍)、ヒラメ(同1.1倍)であった。逆に減少した魚種は、その他アジ類(前年度比22%)、カタクチイワシ(同22%)、マルアジ(同29%)、ワラサ(同32%)、フグ類(同32%)、サワラ(同41%)、タチウオ(同41%)、メジナ(同49%)、マダイ(同55%)、ブリ(同56%)、イワシ類(同57%)、カワハギ(同61%)、スルメイカ(同68%)、シイラ(同70%)等であった。

ブリ(6kg以上)の全漁獲尾数は52,498尾(前年度比57.3%)で、10万尾前後の好漁年の多い最近5年の中では平成17(2005)定置年度の42,110尾に次ぐ低水準であった。漁場別では片田の9,580尾が最高で、次いで早田の9,226尾で、1万尾を越えた漁場はなかった。ブリ

表1. 全漁場合計漁獲量

平成19(2007)年10月～平成20(2008)年9月

順位	魚種名	漁獲量(kg)	相対度数(%)
1	マアジ	2,438,057	42.358
2	ブリ	391,970	6.810
3	ワラサ	360,937	6.271
4	サバ	242,447	4.212
5	イサキ	237,133	4.120
6	ウルメイワシ	207,314	3.602
7	シイラ	195,578	3.398
8	イワシ類	186,717	3.244
9	イナダ	183,376	3.186
10	スルメイカ	182,662	3.174
11	マルソウダ	136,022	2.363
12	カマス	114,777	1.994
13	ヒラソウダ	76,261	1.325
14	アオリイカ	75,631	1.314
15	その他イカ類	61,981	1.077
16	マイワシ	52,631	0.914
17	カタクチイワシ	51,885	0.901
18	ウスバハギ	47,543	0.826
19	マダイ	37,252	0.647
20	カワハギ	34,577	0.601
21	トビウオ	32,397	0.563
22	インダイ	31,413	0.546
23	カンパチ	27,317	0.475
24	その他アジ類	22,525	0.391
25	タチウオ	21,219	0.369
26	スズキ	17,878	0.311
27	ムツ	16,447	0.286
28	フグ類	15,593	0.271
29	ヒラメ	14,438	0.251
30	メジナ	12,519	0.217
31	マルアジ	11,656	0.203
32	サワラ	10,316	0.179
33	ヨコワ	9,475	0.165
34	ヒラマサ	9,335	0.162
35	ヤリイカ	8,315	0.144
36	ウマヅラハギ	6,899	0.120
37	ボラ	6,650	0.116
38	マグロ類	5,904	0.103
39	カジキ類	3,541	0.062
40	ハガツオ	731	0.013
41	シマアジ	329	0.006
42	その他雑魚	156,198	2.714
合計		5,755,845	100.000

のまとまった入網は春季に集中してみられ、4月だけで全体の49%、3月～4月では全体の90%、2月～5月では全体の99%が漁獲された。全漁場合計の最高尾数は3月17日の5,639尾、次いで4月9日の5,336尾、4月11日の4,246尾、4月6日の3,069尾、3月16日の2,876尾、4月4日の2,508尾であった。1漁場における1日の最高漁獲尾数は片田の2,219尾（4月2日）、次いで同じく片田の2,095尾（3月9日）、早田の1,856尾（3月17日）、片田の1,614尾（4月11日）であった。

ワラサ（2～6kg未満）の全漁獲尾数は98,474尾（前年度比41.6%）で、過去最高を記録した前年度を大きく下回り、ここ10年の平均値よりも約1万尾少なかった。ワラサの目立った入網は11月～12月と3月～5月にみられ、11月～12月に全体の35%、3月～5月で全体の31%が入網した。12月下旬には片田で集中漁獲がみられ、3日間で約14,000尾が水揚げされた。今年度は好漁年と比較して春季の入網が少なく、3月～5月に1日で2,000尾以上まとめて入網した漁場はなかった。全漁場合計の最高尾数は12月25日の8,784尾、次いで12月24日の4,089尾、11月1日の3,420尾、1月25日の2,736尾、12月9日の2,734尾であった。1漁場における1日の最高尾数は片田の8,321尾（12月25日）、同じく片田で4,089尾（12月24日）、次いで梶賀の3,381尾（11月1日）、和具の2,705尾（1月25日）、梶賀の2,544尾（12月9日）であった。なお、島勝では体重3kg前後の平成19(2007)年級群が8月18日～20日に7,458尾、9月中旬にも7,452尾まとめて漁獲された。

イナダ（0.5～2kg）の全漁獲尾数は270,624尾（前年度比2.3倍）、当歳魚が主体となる8月と9月を入れない集計期間では73,837尾（前年度比93%）で、過去10年では7番目の漁獲尾数であった。平成19(2007)年級群のまとまった入網は10月と4月～5月に見られた。特に10月4日～5日には贅で約3万8千尾の集中漁獲があっ

た。また、阿曾では4月16日に4,766尾、5月18日には2,786尾の入網があった。

平成20(2008)年級群（当歳魚）は、7月末頃からまとまった入網が見られた。贅では8月上旬～中旬に約4万2千尾、島勝では8月中旬だけで約10万尾、9月前半にも約5万尾の漁獲があった。8月～9月の集計を開始した平成17（2005）年級群以降では夏季の最高漁獲尾数となった。

ブリ以外の魚種では、マアジが2,438トン漁獲され、記録的な豊漁となった。魚種別の漁獲統計が整備されている昭和46（1971）定置年度以降、1魚種で2,000トンを越えたことはなく、マアジでは平成5（1993）定置年度の1,312トンがこれまでの最高であった。今年度のマアジのまとまった入網は11月～12月と初夏以降にみられ、11月～12月に全体の18%、6月～7月には全体の53%（1,284トン）が漁獲された。初夏以降の漁獲主体は平成20(2008)年級群（当歳魚）で、今年度の記録的なマアジの豊漁は、当歳魚の漁獲によるところが大きかった。

マアジ以外の浮魚類では、ウルメイワシが207トン漁獲され、昭和46（1971）定置年度以降で平成5（1993）定置年度の239トンに次ぐ好漁であった。一方、カタクチイワシは平成13(2001)定置年度以降で最も少ない漁獲量、サバ（ゴマサバとマサバの合計）は平成14（2002）定置年度以降で最も少ない漁獲量であった。

また、イサキとヒラメが、昭和46（1971）定置年度以降で最高漁獲量をそれぞれ更新した。イサキは10月～11月と5月～6月、ヒラメは1月～4月に好漁となり、共に和具で最も多く漁獲された。

関連報文

三重県（2009）：平成19定置年度 三重県ブリ定置漁獲統計。